

研究活動報告

2007年度 統計関連学会連合大会

2007年9月6日～9日、神戸大学経済・経営学部本館（神戸市灘区）において、2007年度統計関連学会連合大会が開催された。

本連合大会は、2002年度に第一回連合大会として、日本統計学会、応用統計学会、日本計量生物学会の連合大会として開催された後、日本分類学会、日本計算機統計学会、日本行動計量学会が参加し行われているもので、今次大会からは日本行動計量学会・日本計算機統計学会が協賛団体から主催団体となり、5団体主催、1団体協賛の規模で、前回の仙台大会を上回る869名（うち、学生197名）が参加し、活発な報告が行われた。

今次大会では、当研究所からの報告はなかったが、人口に関する報告としては「人口・社会・歴史統計」をテーマとするセッションにおいて、次のような報告が行われた。

「人口動態事象のテンポ効果の解明：2次元コーホート生命表関数による」

廣嶋清志（島根大学）

「米国人口センサス・データの保存・公開について歴史的考察」

前田幸男（東京大学）

「UC Kriging による地価の推定：人口移動と推定地価の時空間分析」 増成敬三（早稲田大学）

また、本年5月に全部改正された統計法（全面施行：平成21年4月1日（予定））に関連した企画セッションとして、「政府統計改革の現状と課題」が設けられ、「経済社会統計整備推進委員会」、「統計制度改革検討委員会」の両委員長を務められた吉川洋東京大学教授を始めとする、改正に関わった各氏からはこの改正に至るまでの当事者ならではの興味深い経緯を伺うことができた。

なお、次回、2008年度の連合大会は、2008年9月上旬（日程未定）に、慶應大学・理工学部（矢上キャンパス）で開催される予定である。

（北林三就記）

日本家族社会学会第17回大会

2007年9月8日～9月9日の2日間、日本家族社会学会の大会が北海道江別市の札幌学院大学で行われた。台風9号の影響で、予定どおりに札幌に到着できなかったという声もあちらこちらで聞こえたが、1日目終了時点での参加人数は170人を超えたとのこと、会員700人余りの学会の大会としては、盛況であったといえる。

大会では、7つの自由報告部会、2つのテーマセッション、ワークショップ1つが設けられ、配偶者選択、子育てにおける投資行動、育児、育児支援、生殖医療、介護、高齢者介護政策、世代間援助など、当研究所における関心事と重なる内容を含む報告が、全般に渡って多数なされていた。「出生」をテーマにした自由報告部会では、当研究所の岩澤美帆と守泉理恵が、ウィスコンシン大学のジェームズ・レイモ先生との共同研究「就業女性の出生意欲一親との同居、夫妻の家事分担、就業環境の役割一」を報告した。同じ部会では、“When does the Stork Bring the Baby? - Shotgun Babies vs.